令和7年2月 令和7年度豊島区当初予算案発表に伴う区長記者会見【テキスト版】

高際区長

皆さまこんにちは。本日は多くの皆さまにお越しいただきましてありがとうございます。それではこれから豊島区の令和7年度当初予算案の概要の説明をさせていただきます。

まず、目次でございます。初めに今日は予算案の概要を申し上げまして、その後予算案の柱となる事業を順にご説明いたします。お手元には主な事業の一覧をお配りしておりますので、詳しい内容はそちらでご覧いただければと思います。

それでは、来年度の予算案の概要についてです。まず、令和7年度予算案の特徴でございますが、1年かけて新たな豊島区の基本構想・基本計画を区民の皆さま、企業・団体の皆さま多くの皆さまと一緒に案を作ってまいりました。2月12日に開会いたします、第一回定例会で基本構想・基本計画についてお諮りしましてご審議をいただきますが、この基本構想・基本計画の実現に向けまして、令和7年度は第一歩を踏み出す予算ということで力を入れて組んでおります。一般会計の総額は約1,706億円。前年度と比較しますと176億5,800万円の増となっております。

次に、その来年度の予算編成方針になります。今申し上げました通り、基本構想・基本計画に掲げる理念と具体的な施策、これを着実に実現していこうという思いを込めまして、いろいろ重要なテーマはありますが、特に安全・安心と教育、子どもや若者をはじめとする孤独・孤立の対策、そして住宅施策に重点を置いて編成をしております。

予算案の柱は、こちらにございます基本計画の7つのまちづくりの方向性、こちらに沿ってまとめております。

新たな基本構想・基本計画、申し上げましたように本当にみんなで作ろうということで、ここまで進めてまいりましたので、この基本構想・基本計画に基づいて新しい

豊島区政を進めていくことで、豊島区に長年住んでいらっしゃる皆さまには、まだまだもっともっと住み続けたいなと思っていただけるように、また、これから豊島区に住んでみたいなと多くの方に思ってもらえるように、そうしたまちづくりを進めていきたいと思っております。

もう一つ、区民の思いを予算案へ、これも豊島区の特徴であります。令和5年度から私が区長になりまして、区民提案制度というのを始めました。区民提案をたくさんいただいて、区民投票によって選定していただいてそれを私たち職員が事業化をして、予算案として議会に提案するという仕組みであります。

今年度も、デジタルと防災という二つのテーマで区民提案をお受けしました。78件のご提案をいただきまして、区民投票は若い方からご年配の方まで1,521票。その中から6つの提案を5つの事業に再編成をいたしまして、今回の新しい予算に組み込んでおります。具体的には記載のような内容であります。

次に、予算の規模についてご説明をしたいと思います。左が歳出、右が歳入です。こちら左を見ていただきますと下から人件費、事業費、投資的経費となっております。

ご覧いただいている通りですが人件費は、給与改定や会計年度任用職員数等によりまして、前年度比14億円増となる280億。真ん中にあります事業費は新規・拡充事業の計上などによりまして、36億円の増となる1,051億。一番上にあります投資的経費は、これから進みます池袋の都市再生、それからいよいよ実施になりますけど池袋保健所の移転、これを着実に進めるために対前年度比127億の増となります375億を計上しております。

主な歳入ですが、特別区民税が対前年度比30億円。率にして9.3%の増となる353億円を計上しています。

また、特別区財政調整交付金は、令和6年度の交付実績を踏まえまして、14億円の減。率にして3.7%の減となる365億円を計上しております。

経費別にご覧いただきますと、子ども家庭費と福祉費で全体の4割、次に都市整備

費が続いております。

次に、その中で新規・拡充事業の内訳をご覧いただいたのがこちらでございます。投資的経費を除きまして、新規拡充事業が190事業64億円を計上しています。その中身ですが、一番多いのが教育、それから福祉、子育てとなっております。令和7年度は、子育て支援にも引き続き力を入れながら、安全・安心、そして教育、先ほど申し上げた孤独・孤立対策などに重点を置いて進めてまいりたいと思っています。

次に、予算案の柱となる主な事業についてご紹介を申し上げたいと思います。

まず、柱の一つ目であります地域とともに支え合う、安全・安心なまち。安全・安心のまちづくりは一丁目一番地であり、特に、力を入れています。

初めに、備蓄についてです。今年、5年ぶりに地域防災計画を改定いたします。その計画も踏まえまして、防災備蓄の強化、避難所対策の推進、区民防災力の向上に取り組んでいきます。

備蓄の強化ですが、能登半島地震を受けて、まだまだ避難所の運営だとか、備蓄について女性の目線が足りないなと思ひまして、昨年5月に、女性の視点から見た防災プロジェクトチームを設置しました。防災女性の会の方、町会長、防災士、大学生、消防署の方など女性によるプロジェクトチームで検討を重ねていただいた成果を予算に盛り込んでいるところであります。

新たに備蓄するものは、右側に書いてございますが、おりものシートや保湿クリーム、防災ホイッスルなどです。

また、右下に写真がございまして、プライバシーの保護という観点から、今まではダンボールなどで間仕切りを作っておりましたが、なかなか安心して女性、特に乳幼児と一緒にのお母さんとか、若い女の子とかちょっと心配だわというお声もあって、間仕切りのテントを購入することにしました。

また、エアベット。段ボールベッドは結構持っていますが、組み立てるのが大変だったり、置いておくのにも場所をとったりありますが、このエアベッドであれば、女の人でも持ってきて、設置ができるというようなこともありまして、こうしたエアベッドについても、充実を図っていきたいと思います。

それからまた下に小さくありますけども、福祉救援センター。高齢者や障害者、ま

た小さい赤ちゃんがいらっしゃる方など、一般の避難所では、避難がしにくい、居にくいという方については、福祉救援センターで避難をいただくこととなりますが、そちらについても、備蓄の拡充をということで、簡易トイレとか、たん吸引器、乳幼児の肌着とか、オストメイト備品、流動食品などの備蓄を進めて参ります。

また、救援センター35施設、小学校などにございますが、備蓄も携帯トイレとか給水器とか、今までなかったようなものも備蓄を進めますが、それと併せまして、備蓄倉庫の管理をプロの事業者へ委託して、災害時に迅速に動ける即応体制を強化したいと思っております。

今も各救援センターには備蓄がたくさんありますが、お恥ずかしがらなかなか整理が行き届いてない、昔のものがずっとあったり、いざというときに必要なものがどこにあるのかっていうのが、もう一番優先になりますので、今回備蓄を拡充するこのタイミングで一旦今あるもので棚卸をしたり、どういうレイアウトで、どこにどういうふうに置くのが機能的なのかとか、在庫管理システムを作りたいなというふうに思っているところであります。

次は、エレベーターです。令和4年5月に東京都が首都直下地震等による被害想定報告を出しました。それによりますと、豊島区は、人的物的被害は減少しますが、エレベーターの閉じ込め件数というのが、前回と想定のとときから3.5倍増加するという記載がございました。

地震対策を進めているエレベーターでも、首都直下地震の性質上、途中で止まっちゃう、閉じ込められちゃうっていうことがありうるということで、来年度から3年間で、エレベーターの中の防災キャビネット、まずは区有施設ということで、46の施設71台。今は、9台に防災キャビネットをつけていますが、それを拡充したいと思っております。

区は、ここにありますように647台、閉じ込められるんじゃないかという報告が出ているので、今後は区だけじゃなくて、民間の施設などにも積極的に普及啓発・呼びかけをしていかなければいけないなと思っているところであります。

災害時について、次は、災害時の避難者・要援護者への支援強化の観点でご説明を

いたします。一つ目が防災士の資格取得助成を拡充します。

今、35 救援センターがありまして、各救援センターに1人ずつ、いざというときに救援センターを開設していただく、運営していただく防災リーダーの養成を進めていますが、これを倍にして、この2名というのが、十分かどうかわからないんですが、倍増して70名防災士の資格取得費を助成いたします。

二つ目は、家具転倒防止器具の購入および設置費用を助成いたします。近年の地震の被害調査を見ましたところ、負傷者の3割から5割が屋内での家具が倒れたり、落っこちてきたりして怪我をされているということがございましたので、こちらにございますように65歳高齢者の世帯、それから障害者のいらっしゃる世帯などを対象に家具転倒防止器具を購入したり設置したりする費用を1世帯当たり最大1万5,000円、新たに助成したいと思っております。

右側、うちも猫がいますがペットです。ペットの災害対策をどうするんだということも区民の皆さまからご不安のお声を頂戴しております。

今年度は、12月1日に目白小学校で初めてペットの同行避難訓練をやりました。私も行きましたが、実際にペットと一緒に避難をしてきたときに、人間とは一緒のところにはいません。どういうところにペットがどういう形にいるのかとか、何を自分たちが持っていかなきゃいけないのかなど、同行避難訓練をやりました。来年度も2回やりたい、そのうちの1回は、人間の避難訓練と一緒にやってみたいと思います。

また、いろいろ災害のときの報道を見ますと、うちに猫ちゃんがいるのでとか、わんちゃんがいるので、避難しませんということで、最悪命を落とされる方もおられます。なので、ペットの避難については、動画とか、あとイベントなどを通じて区民の皆さまに広く周知をしていきたいと思っております。

もう一つ、災害の関係ですが、これは区民提案です。区民提案から二ついただきました。

一つは、区内にいくつも大きなデジタルサイネージがありますが、このデジタルサイネージを活用して災害時にいろんな呼び掛けを一斉にできる、そうした仕組みを作

ったらいんじゃないかというのが一つです。

このご提案を受けまして、まずは私どもが持っています大きいものとして、西口公園のグローバルリング、それから豊島区民センター、この東西2ヶ所のサイネージを活用しまして、発災時には池袋駅周辺にたくさん帰宅困難者となる方がおられますので、その方たちに対して、どういうタイミングでどの情報を流すかという運用ルール、それから必要なシステムの管理システムの改修などをやっていきたいと思えます。令和8年度から開始となっていますが、いつ災害があるかわからないので、できれば何らかでも来年度トライアルをしたいと思えます。

その次の段階としては民間との連携です。池袋駅周辺には民間のサイネージが12ヶ所あります。こちらでも区と連携して同じ情報を同じタイミングで流していただけるというのがいざというときに本当に心強いと思えます。今年に入りまして早速、このサイネージのネットワーク会議に本区職員が参りまして、こうした私たちの考えについてご説明をしました。来月から各企業とヒアリングなどを進めていく予定にしております。

右側の防災は、自分ごととしていかに考えていただくかっていうのが重要だと思っております。区民の皆さまからも、お子さんから若い方、ご年配の方もそうですが、イベントなんかと連携して楽しく学びながら、自分事として防災を考えていけるようなそうした取り組みをぜひやった方がいいというご提案を受けました。

防災遊びイベント、豊島区はいろんなイベントをやっていますのでそうしたところで、他の先進的なところを見ると、何かリレーみたいに体を動かしながら、防災について学ぶいろんなトライアルとかありますので、私たちも負けじとやりたいと思えますし、防災マップを作る、そういったワークショップをしたい、そうしたイベントとか防災マップも、役所が主催のものだけじゃなくて、各町会とか、各団体とか皆さんそれぞれでやっていただけるように、やり方なんかを動画にしたり、防災マップも少しお金をかけまして、このエリアについての防災マップ作りができる分割した防災地図というのを作るようにいたします。例えば、要町地区などという形で、防災をつくる土台となるマップを私たちのホームページなどから入手していただいて、それをもとに皆さんで歩いて地域でどうなっているかというのを見てもらう、というような取り組みをしたいと思えます。

避難場所までどういうふうに行って、どこの何が危ないかっていうのは、小さい子だとか、高齢者、障害者または家族が何人などその人の状況によって異なりますので、ぜひ、お1人お1人歩いていただいて、実体験して備えていただきたいなと思います。

次は、最後、防災でハードのところではありますが、池袋本町四丁目地区の不燃化促進についてです。これは、東京都施行の特定整備路線の整備に合わせまして、木造住宅密集地域の不燃化を促進するため、池袋本町四丁目1・2番街区、東武東上線の北池袋駅前のあたりですが、そこで防災街区整備事業、組合が進めるこの整備事業の事業費の一部の補助を行いたいと思います。

ビフォーアフターで、今左側のこういう状況が、右側にあるような、11階建て60戸のマンション、高層マンションに変えていくというものでありまして、令和8年7月に工事に着手、令和10年3月に完成予定であります。防災については、ソフト・ハード合わせて力を入れていきたいと思います。

地域とともに支え合う安全・安心なまちという意味では、ソフト面の土台となるのは、コミュニティの強化だと思っております。区には、いろいろコミュニティの強化の場所があります。町会・商店街もそうですし、そして地域区民ひろばというもの、豊島区においては大きなコミュニティの土台になるところであります。22地区全部にあります。

この区民ひろばで新たな展開をしていきたい。今もどなたもどうぞというふうには言っていますが、乳幼児を連れの若いお父さん、お母さんにご年配の方ということで、その方にはこのままどんどん使っていただきたいんですけども、利用者が限られてしまっている。一方で、若者、中学生・高校生や若者などの居場所をどう作っていくかというのが課題になっているというようなこともありまして、これからはこの新しいこの三つの取り組みを進めていきたいと思います。

下からありますが、支援が必要な方、これは高齢者もそうだし障害者ももちろんそうですし、いろんな生きづらさを抱えた方などもそうなると思いますけど、支援が必

要な方を地域で支え合う、そうしたひろば。

そしてもう一つは、子どもも小さい子だけじゃなくて、小学生・中学生もそうですが、子ども向けの事業を重点的に行う、子どもがとにかく生き生きと過ごせるひろばを作ろうと。

そしてもう一つは、地域の拠点となる場作りとして、コミュニティカフェを作っていこうというこの三つのモデルを令和7年度やってみたいと思います。

これまでは、区内5ヶ所のひろばで曜日を決めまして、カフェと高齢者向けのスマホ教室をやっておりましたが、来年度は常設のコミュニティカフェを2ヶ所、区民ひろばに作りまして、どなたでも入りやすい、居心地の良い場所にしていきたい。4月以降に、どこにするか決めまして、夏にはスタートをしたいと思います。

区民ひろばは、元々世代間交流とか地域コミュニティの活性化というのを理念として運営をしています。こちらをこれまで以上に地域の特性なんかを生かしながら、みんなが使える場所にしていきたいと思います。

町会についての支援を簡単にご説明したいと思います。これも区民提案いただきました町会活動のデジタル化であります。地域コミュニティの核である町会ですが、加入率が下がっていて、また、次世代への後継者不足というのが会長の皆さん本当にご心配になっておられます。こうした中で、多くの人に町会の活動を知ってもらう、というような観点も含めまして町会のデジタル化を応援していきたいと思います。

町会でやっているところはやっていますが、LINEの公式アカウントの導入をサポートしたり、電子回覧版の作成を伴走型で支援したり、いろんなデジタルの応援をしたい。

そしてもう一つは、一番下に情報交換プラットフォームというのがありますが、若手の核となってくれる方がなかなか入ってくれないんだよねというような町会長からの声があるんですが、やっている方もいるんだけどなかなかその若手同士っていうんですかね、その横のつながりが持っていないので、うちもLINE WORKSを幹部と管理職で、災害時いざという時のためにやっていますが、町会12地区ありますので、12地区の若手のリーダー格の方にLINE WORKSで横のつながりを持ってもらおうかな、そっちの地区の町会ではこのことをやっているんだって、うちの町会ではこんな

ことやっているよってという情報共有とか、若手の方にいろいろ悩みがあるかもしれませんので、悩みの共有とかそうしたその若手の結束を固めるべく、情報交換プラットフォームを作る応援もしていきたいと思います。

安全・安心がちょっと長くなりましたので、次からはポイントを絞っていききたいと思います。

次は、子育てしやすく子ども若者が自分らしく成長できるまちで、小1の壁です。

3学期から始めました駒込小学校と清和小学校におきましては、1月8日から10名のお子さんが朝30分早く学校に来ており、学校の用務員の方が見守りをしています。

そして帰りは、夕方16時から18時、18時になるとお母さんやお父さんが迎えに来るのですが、その前でも真っ暗。そこをサポートしています。シルバー人材センターの方が3方向にわかれて、ある一定の場所まで交通量の多い通学路、通りを渡るところまで行って見送るといようなものを、今両校合わせて70名のお子さんが利用をしています。これを4月から小学校全校で開始します。

おはようクラスもそうですし、お帰りは、小学校1年生で、まだ学校行くのに慣れていませんので、新学期の当初の期間とそれから暗くなる時期にやりたいと思います。

次は不登校対策ですが、今まで豊島区としても力を入れてきましたが、全国的にも増えてきており区においても直近5年で不登校児が2倍に増えております。

これまでもいろいろやってきました。適応指導教室という、教育センターにあります。まずはおうちから出て、友達と関わったり、生活習慣を身につけてもらおうということで適応指導教室というのを設けておりますし、都の事業ですが、バーチャル・ラーニング・プラットフォームといったおうちにいても、友達とネットバーチャルを通じて、触れ合うことで、中には、おうちにずっといましたけど、そのバーチャルの中でお友達と触れ合うことで、適応指導教室に来られるようになった子もいます。そうしたこともやっていますし、スクール・ソーシャル・ワーカーは、今年度から全中学校区8中学校に全て置きました。そのスクール・ソーシャル・ワーカーが小学校も含めて、それぞれ担当の学校を全部まわるということで、教員だとか、スクー

ルカウンセラーだとか、家庭訪問を行ったり、いろんなところのネットワークを生かして取り組みを進めているところでありますが、これをさらに力を入れて強化したいと思っています。

大きくはこの四つです。一つ目は、不登校対策支援員を、全中学校に配置をします。今は校内別室の教室というのを設けていて、そこに、教室には通いに行けないけど、学校の中でも別のところだったらいけるっていう子が来ています。

ただ、今までだと、そこにずっといる大人がいないので、空き時間に教員が声をかけに行ったりはしますが、基本的には子どもたちはそこで自習をしている状況です。それを強化したいなということで、今年度から中学校3校をモデルにしまして、教員免許を持っている人、不登校対応の経験者を、区独自に不登校対策支援員として配置をしました。毎日その支援員さんが、学習支援や自立支援を行うということをモデルで行いましたが、これを来年度は全中学校に配置します。

そしてその方が、さきほども申し上げたように学習支援・自立支援も行いますが、スクール・ソーシャル・ワーカー、スクールカウンセラーとも連携を密にして、支援の充実を図っていきたいというふうに思います。

二つ目はチャレンジクラス、これ東京都の事業でして、令和6年度中に10区市で設置がありますが、来年度は我が区もエントリーを開始いたします。

このチャレンジクラスは、5名の正規の職員が張り付きます。不登校生徒に対しまして、学校に行きたいとか、学びたいとかそう思う気持ちを大切にしながら、ゆとりを持った生活時程、例えば登校時間を遅らせるとか早く帰るとか、そうしたゆとりのある生活時程のもとで、1人1人の状況に応じたきめ細かな教科指導を行います。

また、体験活動も重視した行事を行うなど、生徒の主体性を大切にしながら行うということでこれは、西池袋中学校に設けます。区内在住であれば、区立以外の生徒も対象になります。

スリジエっていうのは、聞きなれないんですが、聞きましたところフランス語で桜の木という意味でして、花言葉が「私を忘れないで」。良い教育、心の美しさ、そういう思いを込めて、ちょっと言いにくいですけども、素敵な意味を持つスリジエという名前のチャレンジクラスを西池袋中学校、ちょうど区の真ん中辺りにありますので、どこからでも通いやすいかなということもあるのと、西池袋中学校は不登校対策一生懸命やっただいていてということもあって、ここにチャレンジクラスを設けま

す。

三つ目は不登校対策のプロ、スーパーバイザーを新たに区独自に配置いたします。

学びの多様化学校、いわゆる不登校の特例校と言われるところの管理職経験者に来ていただけることになりまして、その方に区の不登校対策のスーパーバイザーとなっていただいて区立の全小中学校を回ってもらう。そして、教職員の指導助言をしてもらう、あるいは保護者の皆さまへのいろんな悩みを抱えておられる保護者の皆さまへの講演などをしていただくなど、不登校対応の充実をこの人を核にしっかりやっていきたいと思えます。

プロが来ますので、全ての教職員においても、不登校の児童生徒の気持ちにより寄り添った支援ができるんじゃないかと期待をしております。

四つ目は、不登校対応の巡回教員も配置をいたします。これは、池袋中と千登世橋中学校、後でちょっとまた配置される図を見せますが、この二つを拠点校として、不登校対応専門の都の教員が、配置になりまして、全中学校を巡回します。校内別室での不登校対応などについても助言をしたり、生徒への学習支援などを行っていただくことにしております。

こちらは、イメージ図です。不登校の子にはいろんな心のエネルギー低い高いと、こういう言い方が良いのかはあるんですが、レベルが状況によって違いますね。

おうちから出られない子、その子もバーチャル・ラーニング・プラットフォームで人とつながることで、柚子の木教室と言いますが、教育センターにあります適応指導教室に出て来られるようになった子もいると、そこでいろんなメンタルのいろんな支援を受けながら、少ない人数での活動をしたり、ソーシャルスキルトレーニングなどを受けていただく中で、少し気持ちが上を向いてきたら校内教育支援センター、校内別室ですがここに来てもらえるといいな、そこには全中学校に専門の支援員がいる、そこで支援をします。

そして、もしかすると、もうちょっと気持ちが上がってきて、勉強しよう、しっかりしよう、やってみたい、でも教室には行けないっていう子はスリジエ。スリジエは区内であればどこからでも来てもらえることになります。

スリジエを設ける西池袋中学校には、にしまルームというのが令和5年度からあります。これは不登校傾向の子もそうだし、そうじゃない子もそうですが、放課後の居

場所を作っています。そういう全体の居場所、もういろんな観点での元気度、心のエネルギー度が子どもによって違いますが、受け止められるような体制をとりたい。

そしてその教職員たちを支える仕組みが、次であります。先ほどの不登校のプロ、スーパーバイザーの方が、スリジエだったり、拠点校となる池袋中学校、千登世橋中学校だったり、そうしたところを、教職員などを支えていく、こうした体制で不登校の支援をしていきたいと思います。

ちょっと前に戻っていただきまして、もう一つ特別支援教育についても体制を強化したいと思います。今、発達障害をはじめ豊島区においてもいろいろ障害のある子が増えております。

特別な配慮が必要な支援もしっかりできるように特別支援教育指導員を4名、学級運営補助員を2名増員して、体制強化を図りたいと思います。指導員の方は、特別支援学級がある学校、設置校に配置をして、配慮を必要とする子どもたちに対して個別の学習支援や生活の支援を行います。補助員の方は、通常の学級の中で配慮を要する方、子どもの支援を行う、その両面で体制も強化をしていきたいと思います。

学校については、後ほど出てきますが、学校の改築も進めていきますけれども、その他に改築校じゃないところもありますし、子どもたちの学習環境をいかに整えていくかということに力を入れたいと思っていて、これはもう他区でやっている区も大勢あるのでちょっと遅れているのかもしれませんが、電子黒板を来年度から2年間、令和7年度・8年度で、今入っていない学校へ電子黒板の整備を進めます。

また、デジタル教科書がこの電子黒板と合わせて、有効な授業をしてもらいたいということで、今中学校の英語しか入っていませんが、国語、数学、社会、理科、それから、他の美術とかを含めまして、11教科導入をします。

そして、もう一つ環境整備ということで忘れてはいけないのは学校のプールですが、熱中症対策という意味で、これは3年間かけて、段階的に各学校のプールの遮熱対策を進めてまいります。

学校改築の推進は、今まで発表しているものなので、ご覧いただければと思いますが、資料の一番上の千川中学校は、令和10年9月の開校を目指して、今年秋に建築工

事の着手予定です。

資料の真ん中の、朋有小学校・西巣鴨中学校校舎一体型小中連携校と総合体育場の整備について、小中連携校は令和16年度中の竣工、総合体育場を含め全ての整備は、令和18年度に完了を目指しまして、今年度は地域の皆さまなどとの「考える会」を立ち上げて検討を進めていきます。

駒込中学校も同様に、来年度は、民間から借りる既存建物の解体を行いまして、同様に建て替えを「考える会」をスタートすることにしております。

次に、子育てのところでは、産後ケア事業は、すごくニーズが高くなっております。平成30年度に80名の利用で宿泊型の事業を始めましたけど、令和6年12月で316名に利用が増えています。

今年度から宿泊型に加えて通所型も始めましたけれども、これもたくさんご利用いただいています、来年度からは訪問型も加え、宿泊型及び通所型も利用の枠を増やして、ニーズに応じていきたいと思っております。

また、産後ドゥーラの派遣です。妊娠期から産後6ヶ月まで、今までは、要支援家庭やひとり親家庭、双子や三つ子などの多胎児家庭を対象にしていたのですが、こちらでも要望が非常に多いものから、全世帯を対象に、ご希望の方はどなたでも使えるように要件を外しました。

資料の右側は、保育園の連絡手段です。保護者との連絡帳というのを、遅まきながらオンラインでやりたいと思っております。お父さん、お母さんや、忙しい方々とも、オンラインで子どもたちの様子の連絡をしたいということでもあります。

次は、子ども・若者の居場所づくりを、力を入れたいことの一つとしてあげております。子どももそうですけど、若者もしっかり応援していきたいなと思っております。子どもの居場所としては、子ども食堂や学習の支援、遊び体験など、そうしたものを提供する事業者に対して、区として補助をして、子どもの居場所を創出していく

というものであります。

2つ目はちょっとユニークではあります。若者の居場所ということで、UR都市機構が持っている不動産で、空き家になっているものがあるということで、ここを、若者の自立や社会参加に向けた支援を行う団体が区内にいくつかありますので、そこに無償でお貸しし、区が建物の中をシェアハウスにしたり、いろんな使い方に応じた建物の改修費を区が補助したりすることで、民間支援団体による若者支援をバックアップしたいというふうに思いまして、来年度はまず、2か所開く予定であります。官民連携での若者支援をやってまいります。

もう一つは、児童養護施設の誘致に向けた検討を、いよいよスタートをしたいと思えます。今区内には児童相談所がありまして、令和7年2月1日で、2年を迎えましたが、児童相談所で関わりがあって、その後、児童養護施設などで養育をお願いしている子どもたちがいますが、区内に児童養護施設がないので、99%の子どもが区外で生活をしています。

中には、区内で暮らして通い慣れた学校に通学しながら、親子関係の再構築を図ることがベターな子もいますが、今はみんな区外の施設に行ったりしている状況です。

また、児童相談所におけます一時保護所も、学齢児の定員をいつも超過しているような状況にありますし、宿泊を伴う子どもの預かりを行うショートステイ事業を実施していますが、お母さま・お父さま方の事情、あるいは子どもの事情、双方あると思いますが、ショートステイ事業のご要望がとても増えています。

しかし、一番使わせてもらっているショートステイ先（児童養護施設）が、区内から1時間ぐらい離れているということで、利用する方にとっても移動の負担が大変ある等のことから、このたび児童福祉審議会に、今後の社会的養育推進計画について、あわせて施設の在り方について諮問をいたしまして、答申をいただきました。

里親の支援などの機能も持った多機能型の児童養護施設を区内に作る必要があるというご答申をいただきまして、来年度に候補地をどうするか、どのような形で運営していくのかなどの調査や検討をスタートしたいと思っております。

次は住宅です。本区は子どもの数が増えていて本当に嬉しいのですが、18歳以下の

子どもがいらっしゃる子育て世帯の転出状況を見ますと、小学校に入るようなタイミングで引っ越したり、子どもが大きくなると引っ越したり、そういうケースが多いということで、色々な子育て支援もやっていますが、住宅の面での支援を強化すべきと考えておりまして、2つ挙げております。

1つ目は、多世代近居・同居のための費用等助成です。お父さん・お母さんが区内にいる、あるいは他の自治体から引っ越してくる子育て世帯に対して、転居費用などを最大20万円の補助をします。所得制限はありません。子どもは15歳以下です。

2つ目は、子育てファミリー世帯の家賃助成です。これは区内に1年以上住んでいて、子どもが大きくなったので、もう少し広いところをしたいという場合に、今までは、よその区に引っ越して行かれていましたが、そこを応援したいということで、支援内容を拡充したいと思います。所得要件、家賃上限、助成額を引き上げました。なので、できれば豊島区に残って住んでもらいたいなというふうに思います。国籍要件もこの際撤廃をしております。

この2つで、何とか子育て世帯を、引き続き豊島区で元気な子を育ててほしいなと思います。

住宅はもう1つ申し上げます。区営住宅等の整備です。区内の公営住宅は2つありまして、都営住宅以外に一般のファミリー向けの「区営住宅」と高齢者向けの「福祉住宅」というのがあります。区営住宅は結構古くなっております。福祉住宅は、民間の皆さまから借り上げておりまして、家賃を払っているという状況であります。

区営住宅を、これからやっぱり建てかえていかなきゃいけないという中で、この2つを一緒にできないかと、新しい形の公営住宅ができないかということで、考えているところであります。

今の区営住宅は、入居者が高齢化で、1人で住んでいる方ももちろん多いですし、自治会機能も低下し、団地内外のコミュニティの希薄化なども見られます。一方で、福祉住宅は、高齢者の方がお住まいだということもあるので、今回は多様な世代・世帯が交流できるような、そして新しい形での公営住宅を作っていきたいと思います。

これを進めることで、借り上げている福祉住宅のお住まいの方を、こちらにお住まいいただくことで、福祉住宅の借り上げを少なくしていくというような、財政効果も

含めまして進めていきたい。

令和7年度はプロポーザルで事業者を選定しまして、令和8年度から順次建て替えを進めていきたいと思っております。

次は、保健所の本移転、令和8年5月に開設するので、来年度は色々な面で情報提供していきたいと思います。在宅医療や介護医療も一生懸命やっていきたいし、高齢者の服薬相談、処方されている薬の飲み合わせで具合悪くなるのも、命に関わることもありますので、こうしたこともしっかりやっていきたいと思います。

ワクチン接種は区民の方からお声が多いです。1つだけご紹介します。おたふくかぜワクチンの2回目任意予防接種への一部助成を区独自に始めます。下の今までもやってきましたワクチン接種の助成は継続してやらせていただきます。

特色あるスポーツ機会の充実について、これも引き続きやりますので、後でお読みいただければと思います。

そして、文化です。文化は、今年新しい基本計画で、明確に1つ柱を入れました。文化の支援は色々ありますが、区としては、公益財団法人 としまみらい文化財団と連携をしたうえで、子ども・障害者・外国人など、ご自身だけでは文化の体験、経験ができない、できにくい子たちを応援していきたいということで、進めていく考えであります。

障害のある子、外国籍の子、ひとり親の家庭でお母さんが忙しくて、なかなか色々なところに行けない子など、子どもたちをしっかりと応援できる文化行政を進めていく考えであります。

シティプロモーションもあわせて一生懸命やっていきますので、メディアの皆さまと連携をしたいと思います。

産業については、商店街の支援、空き店舗の支援です。空き店舗の支援は、区民提案で今年度始めましたけど、好評ですので継続します。1つお伝えしたいのは、銭湯

の利用です。銭湯の利用は、今、としまおたっしゅカードという、高齢者の皆さんに100円で入れる支援をやっていて、今年度30枚の回数券を40枚にして、大好評なのですけれども、子どもに増やそうということです。

これは6歳未満までは入浴料100円、12歳まで200円の入浴料ですけど、中学生になると550円一気に値上がりすることにより、一気に来なくなるということ、東京都公衆浴場生活衛生同業組合(豊島支部)の皆さまから伺いました。

銭湯は日本文化でもあるし、色んな体験をしてほしいということで、この差額の350円分を、18歳まで区が支援をしようということです。年に何回か季節湯(ゆず湯・菖蒲湯など)というのがあり、まずは年4回体験してもらい、18歳までの子どもたちへの支援をいたします。

次は、公衆喫煙所です。残念ながら、ポイ捨てでもですが、このところ、路上喫煙による受動喫煙の苦情が大変多いです。他の自治体に比べても、もしかすると喫煙所が少ないのかもしれないということで、民間事業者等による公衆喫煙所等の設置の助成もしており、これもやっていきますが、区営の喫煙所の設置をしようと思っております。

このコンテナ型のものを、まずは1か所、池袋駅周辺で設置をしたいと思います。これによって、まちの美化の向上もそうですし、健康被害への対策もあわせてやっていきたい。来年度中に設置をしたいと思います。

ゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みも色々やりますので、ご覧いただければと思います。

次に、まちづくりです。これは池袋駅周辺で、今動いているものであります。ウォークアブルなまちづくりの推進ということで、色々やっています。

池袋については、とにかく駅袋の脱却ということで、多くの方々が駅から出て、街に出て、回遊性があって、にぎわいを創出していけるように、ウォークアブルなまちづくりを進めていきます。昨年の11月に池袋駅西口の再開発事業の都市計画決定が出されて、いよいよ動いていくという年になります。

次のページに大きな動きを掲載しております。西口再開発は、資料の一番上にありますけど、2040年代の竣工を目指して進んでいきます。この西口再開発とつながりますが、北デッキです。池袋駅の北側を、東と西をデッキで繋ぐと、それによって回遊性を高めていくというのが、ずっと課題でありました。

今、池袋駅の構内地下通路が狭く、天井も低く、非常に見渡しも良くないというようなことで、いざ災害が起きたときのことも含めまして、まずは駅の外に出す。それとともに、東西をデッキでつなぐというのを進めていく考えであります。この東西デッキが、まさに駅の東西を結ぶ重要な動線となります。

歩行者空間の充実と、池袋全体のまちの回遊性・利便性の向上に向けまして、関係事業者の協力を得ながら、整備に取り組んでいきます。

この資料下の真ん中に、東口駅前再編（クルドサック化）のイメージがございます。今、環状5の1号線の道路工事を役所のすぐそばでやっていますが、これが完成しますと、池袋駅東口駅前の自動車の通行量がかなり落ちるようです。そのため、池袋駅東口は、上野公園にあるようなクルドサック化により、駅前に交通広場を作ります。そして、駅前にまとまった歩行者空間を生み出して、また、グリーン大通りにもつながりますので、大きな歩行者空間・ウォーカブルなまちを推進していきたいと思っております。

来年度は、東口駅前広場のうち、まずはバス停やタクシー乗り場などが入る交通広場について、区としての計画案を作成したいと思っております。

色んな整備に向けて課題はあると思いますが、バス停をどこにするか、タクシー乗り場をどこにするか、ウォーカブルなまちづくりを進めて歩行者空間が広がった結果、高齢者の方や障害のある方が、バスに乗るためにすごく歩くようになるかどうか、ということもありますので、やはり、交通広場をどうするかということが、大きな課題になりますので、そこについて、区としての計画案を作るというのが、来年度の大きなミッションであります。

この交通広場の計画案を前提といたしまして、池袋駅東口の向かい側にあるエリアに、池袋駅東口地区まちづくり協議会ができており、そちらの区域でのまちづくりの検討も、区が作る交通広場の計画案とともに進めていただけるように、関係者の取り組みを支援していきたいと思っております。

人が主役の居心地の良いウォーカブルなまちづくりは、本当に大きな課題です。池

袋駅周辺のまちを活性化させること、にぎわいを高めていくこと、そして災害に強いまちにすること。そうした意味でこれから正念場だと思いますが、頑張って進めていきたいと思っています。

次は、魅力あふれる公園づくりです。区立公園・児童遊園は、合わせて165か所あります。そのうちの6割が小さな公園です。古い遊具が残っていて使われなくなっていたり、どこの公園も同じで、もっとこういうことをやりたいという声があったり、子どもレターの多くが、公園についての要望です。そうしたことから、公園の再構築プランを作ることになりました。

公園アドバイザーをお願いしている、千葉大学の竹内智子先生にご助言をいただきながら、どういう公園にしていくのか、まずは3つのエリアをモデルにして、利用状況を把握します。

そして、同じような公園がたくさんあってもしょうがないと思いますので、あるエリアの中で、ここは憩える公園、ここはボールが投げられる公園、ここは緑が多い公園など、どういう公園にしていくかという特色を決めて、そのエリアで分担をしながら、高田地区やそれぞれのモデル地区の公園づくりをどうするのかを、みんなで決めてやっていきたいと思っています。

大きい公園はそれを補完するような役割でやっていきたい。子どもの声にも、ぜひ応えていきたいなと思っています。

安全・安心にも関係しますが、自転車の事故、電動キックボードやモペットなどの新しいモビリティの普及、電動自転車も大きくなっているということで、自転車等の利用と駐輪に関する計画を作るというものであります。駐輪場が止めにくいというものもあるのかわかりませんが、違法駐輪も残念ながら増えてきています。

区営の駐輪場と区民のニーズが合っていないのではないかというようなことも含めて、来年度、自転車等の利用と駐輪に関する総合計画も策定してまいりたいと思っています。

最後は、これも遅まきながらですが、LINEのプッシュ型のサービスを始めます。

今、区の公式 LINE アカウントで情報発信をしていますが、ご自身に感心がない情報も届いてしまいますので、事前に登録をしていただきまして、ご自身の欲しい情報もれなく届くような、そうしたプラットフォームを作りたいと思います。

議会も幅広く生中継をするということですので、ぜひご覧いただければと思います。

ちょっと力が入ってしまって、盛りだくさんで時間が長くなりまして恐縮です。

以上が予算の柱となる事業です。

令和7年度まもなく始まりますが、いよいよ私も区長の任期の折り返しになります。前半の2年間で、色々なトライアルもしましたし、区民の皆さまと一緒に、新しい基本構想・基本計画の案もできました。それに基づく予算も編成をいたしました。

後半の2年間は、区民の皆さま、それから職員一丸となりまして、このみんなで作った基本構想・基本計画を、一つずつ着実に実現していけるように、全力で頑張ってもらいたいと思います。

メディアの皆さまも、ぜひいろいろご取材いただきまして、豊島区の事業を多くの区民の皆さまに知っていただけるように、ご支援いただけるとありがたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

【質疑応答】

新宿新聞

防災の取り組みで質問です。1つ目は、エレベーターの閉じ込め対策で、区有施設へ防災キャビネットを設置するというのですが、具体的に近年の事例で、この地震のときにこれぐらいの件数の区有施設のエレベーターが止まって、復旧までにどれぐらい時間がかかったという、具体例が何かあるのでしょうか。

2つ目は、帰宅困難者対策について何か取り組みと、今後に向けて何かありましたら教えてください。

3つ目は、ウォーカブルなまちづくりの推進で、駅周辺で特に業務系のビルの大型

開発が進んでいくということで、西口再開発でも超高層ビルが3棟建って、オフィスがかなりの面積を取られているんですが、企業誘致的な部分での期待ですね、法人税やその他の税収、雇用などの影響もあるかと思うんですけど、豊島区さんの場合は、大企業というか、規模の大きいところの本社が他のエリアに比べると、少ないのかなという印象を持っています、そういうことも踏まえて、何か期待感みたいなものがありましたら、お話しいただければと思います。

高際区長

私からは帰宅困難者対策の話をして、エレベーターの事例があるかどうかは後ほどお話しします。

帰宅困難者対策という意味では、池袋駅周辺混乱防止対策協議会を設けておりまして、色んな訓練を実施しているところであります。

そういう中で、通勤・通学の方もいれば、来街者の方も多くの方がいる中で、いかに情報をしっかり届けるかというのが最初の一步かなと思っていて、今までも大型の掲示板をどこに置くかとか、色んなアナログな部分もありますけども発信をするかというようなこともやってきましたが、さっき申し上げたデジタルサイネージなどを使った情報発信については、協議会にもご提案をしながらやっていきたいなと思います。

一時帰宅の抑制についての注意喚起とか、災害伝言ダイヤルがこうなっていますよとか、一時滞在施設の開設状況など諸々の情報をいち早く届ける、あるいは、区の防災ポータルに誘導するような発信も、帰宅困難者対策の最初の一步ということで重要だと思いますので、そうしたところの徹底を今後はやっていきたいなと思います。

現在、それぞれの一時滞在施設で、受け入れたときにどうするかという訓練は、毎年やっていますので、その情報提供の仕方、それから同じ情報をどのように共有するかといった、情報の取り扱いと発信について、今年は各会員の皆さまなどと共有したり、改善したりしていきたいなと思っております。

防災危機管理課長

エレベーターの閉じ込めにつきましては、区としての事例は特にありません。ただ、2018年の大阪北部地震のときに、6万6000機のエレベーターが止まったというのは、かなりニュースになっていたというのが最近の事例であったところです。

エレベーターが止まったときに、やはり困ったというところから、エレベーターへの防災キャビネットを、まずは区有施設でつけるという形で進めていきたいと思っています。

上野副区長

テナント・オフィスビル、特に大型開発が進んできており、事業者においてテナントの誘致を行うことになるわけですが、私が聞くところによると、大きなかなりまとまったスペースが欲しいんだけど、池袋周辺にはあまりまとまったスペースがなく、なかなか立地しづらいと。

でも、そういったものが確保できれば、将来は池袋周辺でいきたいんだというお声を聞いているので、建物が整備されることによって、そういう関係者がいらっしゃることが期待されるので、そういった面では再開発を進めていく意味があると思っています。

新宿新聞

ありがとうございます。もう1点追加で聞かせていただきたいのですが、ふるさと納税の減収分についてです。豊島区当初予算(案)の概要の資料16Pに、「ふるさと納税による寄付金控除額の減収分約29億円の見込みです」とあるのですが、前年度との比較だとどうなるのかを教えてくださいませんか。

財政課長

ご覧いただいている当初予算(案)の概要の資料16ページの上の方のふるさと納税のところになりますが、令和6年度の影響額が豊島区では27億円、令和7年度は29億円の減収を見込んでいますので、2億円増えているというような形でございます。

東京新聞

最初の予算で、女性の視点による救援センターの環境改善などのお話がありましたけれども、豊島区では、困難女性支援法の施行を受けて基本計画を作られていくということだと思うのですが、その視点を多分今回の予算に盛り込まれているのではないかなと拝見して思いました。

ちょっと視点が違うのですが、第1次豊島区困難女性支援基本計画(案)の策定にあたって、区長としての思いというのを、1つ教えていただきたいです。

もう2点ありまして、不登校児の対策ですが、区内に色々な特徴のある居場所ができていくということだと思うのですが、これらの必要性とといいますか、いろんなタイプがあるということ、どういうところを狙われていらっしゃるのかというのを教えていただきたいです。

3点目は、他区などでは人件費の高騰とか建設資材の高騰を受けて、事業がストップしたり、見直しがあるっていうことも起きていたりすると思うのですが、豊島区の場合は主だったもので何か事業の中止とか、今回大きく見直したものがもしありましたら、教えていただければと思います。

高際区長

第1次豊島区困難女性支援基本計画(案)については、ちょうど丸4年となりましたけれども、すずらんスマイルプロジェクトという若い女の子たちを支援するプロジェクトをやってきました。この間、行政だけでは当然できない最たるものが、この若い女の子たちの支援と私は思っていて、民間団体・大学・高校など、幅広く連携して進めてきました。

そういうことを積み重ねてきた豊島区だからこそ、困難女性支援計画を作ろうという思いでやっております。困難女性は、DVを受けた方、貧困女性や非正規など、ご高齢の方なども含めて、全部の方が入りますけれども、特に若い女の子の目というのを、色濃く入れたのは私たちの区の特徴の1つかなと思います。

若い子だけをということではもちろんないのですが、その子たちがやはり生きづらさを抱えたまま、もっと夢があるのに夢を諦めてしまって、あるいは結婚したけど、こんなことがあってなど、それぞれ人間なので色々な困難がありますけれども、若い

女の子たちが早い段階から人生を諦めたりしないように応援していこうというような姿勢を強く出したりというのがポイントだと思いますし、そういう豊島区ですので困難女性支援計画についても、非常に力を入れています。

それから基本構想・基本計画においても、ジェンダー平等、それから元気な女性も応援したいということで、全ての女性のエンパワーメントというのを入れていきます。そこまではっきり女性の活躍、女性を応援していくんだというのは今までの計画では入ってなかったと思うので、そこも力を入れたところの一つです。

また、不登校の関係は、今教育委員会の関係課長が来ていますのでコメントをしてもらいたいと思いますけど、私はさっきの心のエネルギーが弱い子、どんどん上がってく子っていうのはありましたね。あれは本人の心のこともあるし、家庭環境のこともあるしいろいろ環境が違うと思うので、一気に学校っていうのが望ましいかどうか分からないです。だからその子に合って、どんな形でもその子と繋がり続けられる。その子に合って、段階を踏むか、あるいはもうずっと別室にい続ける子もいるかもしれませんが、その子にあってとにかく繋がれる場所を一つでも多く持ちたいと、その居場所を作るのであれば、専門の人をしっかりと配置してしっかりと支援できるようなそういう体制を整えたいという思いで、今回不登校対策については一段と力を入れております。

教育センター長

スライド 21 ページ「子どもたちの居場所作り」、こちらの図を見ていただけたらと思います。とにかく不登校のお子さんは要因も今のその心の状態も様々です。ですので、その子に合った受け皿を用意することが大切です。先ほど申し上げたようにエネルギーがなかなか出なくて、とにかく親は家庭から出したい、でも学校には行けない、今までは学校か家庭かの 2 択、行き場所がないということがありましたので、まずは適応指導教室に行けば同じような不登校のお友達がいて、その中で少しずつ心を開いてコミュニケーションを取ったりすることでエネルギーが溜まり、そうすると、学校には気が向いたんだけど、いきなり教室というのはハードルが高いということで、この校内教育支援センターに支援員が常駐しているということで安心感を

持って子どもが学校にまず行くことができる。たとえ部屋に入れなくてもです。そういったことをまず狙っているのがこの校内教育支援センターです。

スリジエに関しては、不登校の子ども勉強したい、学びたいという意欲がある子がたくさんいますが、いろいろな事情で集団が苦手、学校に行くことはできない、そういったお子さんは、少人数の環境だったら学べる、そんな子がいます。そういったお子さんがスリジエに行くと、1学年10名程度が定員ですので、そういった中に正規の教員が5名、各教科指導ができますので、これまで例えば、中学校にもし復帰したとしたら、通常の子どもたちと授業を受けると、その子の学習レベルは、小学3年生だったり小学4年生だったり、当然不登校ですので学力は低いです。そういったお子さんが学び直しをできるというのがこのスリジエのメリットになります。

高際区長

人件費などの高騰については、非常に厳しい状況ですよね。人の確保だとか物価高騰、今のところはそれによって、来年度の予算に盛り込もうと思ったが方針変更して盛り込まなくなったものはないです。

朝日新聞

小1の壁について以前取材しまして、すごく良い取り組みだなと思います。ちょっと見てみると、前の会見で区長がおっしゃられた通り、全校に無事拡大できたのだと思ったのですが、一方でちょっと条件が厳しいのかどうなのかわかんないですけど、朝の利用者が2校で10人というのがやや伸びてないのかなっていう所もちょっと感じたりしたんですけど、全校に広げたところでどれほど利用拡大につながるのか、そういったニーズも踏まえて、現状どのようにお考えなのか教えていただきたいです。

高際区長

2校はなんでこの2校にしたかというのと、アンケートを取ったときにご要望が多かった2校をやりました。だからたくさんいらっしゃるかなと思ったけど10名なんだってね、もしかするともう3学期なので、お母さんが先に行って鍵閉めて学校に行くのが慣れたのかもしれない、というふうに思います。今度は1年生で初めて学校に来る

ということなので、今年、年が明けて1月2月と新しい1年生の保護者の方にも説明を始めています。もうお問い合わせも入っているので、お声があるんじゃないかというふうに思っています。

朝日新聞

人数でいうとどれぐらいを見込んでいるのでしょうか。

放課後対策課長

学校用務員さんが児童を見守るということで今スキームを考えておりますので、1校あたり大体10名程度は予想をしているところでございます。

朝日新聞

行財政改革の話についてなんですけど、この豊島区当初予算(案)の概要という後ろのページ、3ページに、すでに区長が以前からおっしゃられたようにその専門のセクションを作って見直しを続けているという話があって、でもそれは学校の建て替えの費用でゆくゆくはもう何百億もかかっていくっていう話がかつてありました。これ見るとここには3億円をその結果捻出できたというふうに読み取ったんですが、その理解でいいのかというところと、あといろんな事業を見直したということで取り上げた事業とかもあると思うんですけどその代表的なものについて何かありましたらお願いいたします。

高際区長

セクションを置いたけど3億円かと思ったかもしれませんが、まず見直しっていう意味で、4月に担当の課長を置いて、3年間やります。初年度が3億円っていうことで、まだこれから引き続きやるんですが、私たちは再構築という言い方をしています。もちろん学校改築にもものすごいお金がかかりますが、そのためにとにかく他のところの予算をできるものは全部切っかかり集めて持っていくんだという思いが、ゼロじゃないかもしれないけどそれがメインじゃ全くなくて、やっぱこの期に、ずっと続

いているけど今これ優先順位低いんじゃないのとか、あるいは今新しいのがこういうの始まったんだからここにプラスしてやればいいんじゃないのとか、そういうのが実は私はいっぱいあると思っていて、だからこの期に事業の内容の見直しも含めて、どういう意味があって、この補助制度をやっているんだっていうのを職員が考え直す・見直す良い機会にしたいというふうに思います。

見直しの中でもいろいろございますので、議会でも、その3億円でどういう事業をどういう観点で見直したっていう資料を用意していますので、ご提供は可能です。その中で例えばある補助助成の事業について、広く薄くやるんじゃなくて、例えば要介護度が高い人に手厚くやって、介護認定を受けてない人はちょっとご遠慮いただいてこっちに集中していこうよっていうような見直しだとか、そんなことも含めて33事業で3億3000万です。一つ一つ、もともとの事業の成り立ちだとかどうして始めたのか、今どうなのっていうことから見直してやっていますので、私も本当に寝ずに再構築を図りましたので、一つ一つご覧いただければと思います。

朝日新聞

給食費についてなんですけど豊島区では無償化されていて、ただ現在は食材がかなり高騰化してきていてキャベツの値段もすごく上がっていきなり思うんですけど、この学校給食費が高騰していることに対してその予算への影響といいますか、そういったところって何か圧迫とかあったりするんでしょうか。

教育長

大変上がっておりますので、今年度内に一度すでにアップしました。その上で、来年度予算についても、状況を見ながらですが一旦アップをしております。その後も、来年度入ってからいろいろ変わるかなということでは、ずっと見ていかなければいけないと思いますが、一定のアップをきちっと図っております。

朝日新聞

それでも継続するってことは変わらないってことですよ。

教育長

おっしゃる通りです。

毎日新聞

ファミリー世帯の定住化支援について伺いたいんですが、多世代近居・同居のための費用等助成というのは、都内で今どれくらい広まっているのかわかれば教えていただきたいです。また、先ほど区長が小学校入学前までに引っ越す家庭が多いとおっしゃっていたんですが、もしも数字などデータとしてわかるものがあれば教えていただければと思います。

高際区長

18歳以下の子がいる子育て世帯の転出のうち、子どもが学齢期に達するまでのケースが6割です。

住宅課長

多世代近居・同居のための費用等助成というところで、他区での実施状況ですが、本区と同じような1回限りの初期費用の助成を行っているのが、北区、新宿区、台東区の3区になっています。その他、千代田区と墨田区については、家賃助成であるとか、住宅ローンの助成・補給を行っているという状況でございます。

産経新聞

デジタル教科書導入についてお伺いしたいんですが、事業の内容を拝見しますと、小学校、中学校でも併用という形でおそらくやられているかと思うんですが、高い学習効果を得ることができているですとか、改訂のタイミングに合わせてより高い効果を得ることができるデジタル教科書枠を広げることだと思うんですけど、ここの根拠というか、あるいは教員側のフィードバック、配ってはいるけど使ってないみた

いなのもあるっていうふうに見ているんで、そのフィードバック効果っていうところについて教えていただければと思います。

教育長

ご案内のようにまだ英語以外の部分は全て子どもたちの方はデジタルなんてないというような状況の中でのチャレンジですが、先ほどご説明したような電子黒板導入も含めまして、例えばビジュアルで見せる、あるいは共同学習のときにそれをフルに利用できるという効果は我々実感しております、教員による差がないように、その研修ですとか、普及を図るといようなことに力を入れていきます。いずれにしても他区でもこういうところは既に多くなっておりますので、異動してきた教員が、豊島区ではこれはできないんですかということがないように、まずは基礎的なところを用意した上でデジタルの効果の高いところは取り組み伸ばしていくというつもりです。

いろいろ要素はありまして、紙の教科書がまだなくならないという状況も踏まえた上でですが、そこはもう了解していますので、取り組みを伸ばしていきたいと思いません。

高際区長

これは区長査定をする時に、どういうふうに使えるのかと思ってですね、結構お金かかるので、持ち込んでもらって、こういうふうにするんだっていうのを、科目でやってもらいました。確かに紙の教科書だけで行うのと比べて、こんな展開があるんだっていうのは実感して予算をつけているわけではありますが、おっしゃる通りうちの教員はそういうことはないことを信じてますが、つけたからにはしっかり使ってもらってということもありますし、どういうところが使いやすくってどういうところがどうだっていうような、おっしゃったフィードバックというのは、校長会などを通じまして、私もしっかり把握したいというふうに思っております。

日本経済新聞

23区結構皆さん出てきて、修学旅行の無償化とか、学用品の無償化とかそういうのが目立つようになってきていると思うんですけど、そのあたりの区長のお考えとかを

伺えればと思います。

高際区長

子育てでは特に教育費がかかるっていうのは言われていますし、無償化をいろいろすることで家庭の負担が減るということでは、大きな支援だなということは思います。私も区長になって一番最初に決めた一番大きい予算が給食費の無償化でした。それ以降、おっしゃるように修学旅行とか学用品とか、いろいろ出ています。どこまで個人の支出を公費で見るとかっていうのは、いろんな考え方があろうかと思います。そうした中で、今私たちが子どもそれからご家庭を応援するという意味においては、例えばさっき申し上げた、1人親のご家庭でお母さんが忙しくてなかなか文化体験、スポーツ体験できない子たちを行政として、未来文化財団と連携しているような機会を作っていくんだとか、あるいは今スポーツはすごく力を入れていますが、トップアスリートを呼んで、そのスポーツチームに自分が入ってなくてもいろんな体験ができるような場を作るとか、それから今ご説明申し上げました不登校対策の支援ですとか、ああいうところにしっかり応援してくんだとか、そうしたところに今私は力とお金を使いたいと思っています。

羽田ゆきまさ報道局

当初予算の会見で、発表内容で1時間とっている区は他にないのではないかと私は思ったんですが、他にもあるかもしれませんが大体30分以内で終わっていると思います。他区にもぜひこの豊島区の会見を真似していただきたいと思うんですけど、区長のこの1時間の会見についての思いをお聞かせください。

高際区長

今ご批判かと思いました。もっと質問時間を取れっていうお話かと思って。私も毎月会見やっているんですけど、私が直接メディアの方に言えるのがこの場しかないので、ついつい力が入っちゃって毎月の会見も本当はもっと30分ぐらいで止めて30分ぐらいご質問の時間をとるべきではないかと思っていたんですけど、今言っていて、また私もできる説明はしようかなと思います。今日はもしかすると喋っちゃう

かなと思ったので、ここに課長いますけど向こうの部屋にも待機させていまして、この後、もっと聞きたいっていうのは、全部お答えできるような体制で臨んでいます。

メディアの方々に書いてもらうことが区民の方に伝わる最初の窓なので、こちらは揃っていますんで、話が聞きたいっていうのは全て対応できます。会社に戻って電話しなくていいように待機していますのでぜひ引き続きご質問いただければと思います。

羽田ゆきまさ報道局

昨年の会見の動画を見ながら今日来たんですけど、それで逆に質問時間が30分と短くて、他の区だと20分ぐらいの説明に対して1時間が限度とかで40分ぐらい質疑応答の時間が取れているとか、ちょっと逆にせっかくこのようにいろいろな説明を受けているのに対しての質問時間が短いのかなっていう気もするので、そこをぜひお願いしたいと思います。

あと区長の今回の肝入りの政策というのがあれば、教えてほしいです。

高際区長

頭にあった三つありますね、安心・安全っていうところはやっぱり災害対策、女性の目線も含めた備蓄避難所、それから区民の皆さまに自分ごととして捉えてもらうって防災のところと、それから不登校の対策と、若者の応援ということで若者の居場所を作るなど、孤独・孤立にさせないっていう、高齢者ももちろんそうですけど、孤独・孤立に豊島区民にはさせないっていうその3分野は力を入れたいと思っています。

羽田ゆきまさ報道局

防災備蓄の強化でテント・エアベッドの整備というのがあったんですが、あれは全避難所で必要な全数を確保したということなのか、1避難所に対して5つだとかいくつかの数が制限されているということなのか教えてください。

防災危機管理課長

今年は4ヶ年で揃えていく1年目になっているんですけど、今年1年間で数のある程度買いまして、その中でどのくらいこれが本当に必要になるのかという点を精査します。全数はさすがに2週間ぐらい過ぎすと恐らく半分以上の方は避難所から出ていくという中で、そこまで必要なのかとそういったところも精査した上で、これからいくつ数をとということで、4ヶ年の1年目ということで進めていこうと考えています。

羽田ゆきまさ報道局

今年、個数としてはいくつ買う予定なんですか。

防災危機管理課長

テントが2,900個で、エアベッドの数は少々お待ちください。調べまして後ほどお伝えします。

羽田ゆきまさ報道局

動画で撮っていますので、ぜひ会見中に回答いただけると助かります。

TOKYO MX

前後して申し訳ないんですが、先ほど発表されていた小1の壁解消の朝と帰宅での見守りの全校実施についてなんですけど、こちらは23区で初めてということでしょうか。

高際区長

そうですね、おはようとおかえりをやっているのは豊島区だけです。

TOKYO MX

こちらなんですけど初となる意気込みというか、区長の小学生、保護者に対する思いとかがあったら教えていただきたいのと、あと2校でやった時のその保護者の方だったり児童だったりの反応っていうのも加えて教えていただきたいです。

高際区長

私たちは特にこの2年は子育て支援と子どもの支援っていうのを力を入れてきました。妊娠期から特に1歳になるまでの切れ目ない支援っていうのも力を入れてきましたが、そうしたいろんな支援の拡充に向けた保護者の皆さまのお声を聞いている中でやっぱり小1の壁っていうところが大きいなということでやり始めました。

最初はやっぱり学校側のご負担もあって、2校のモデルでも始めるまでには担当のラインでだいぶ苦労したところもあるんですが、始められて良かったなと思っています。そういう意味ではさっきご質問をいただきましたように、思ったより少ないなと思いましたが時期のこともあるのかもしれないですね。今4月に入学されるお子さんがいる保護者の皆さまにいろんな学校で説明している中で、これを説明できるということは大きな安心材料になったんじゃないかということでは、頑張った甲斐があるな、全校でできるようになってよかったなと思います。

実際のお声としては、特におかえりの方は、もう4時でも5時でも真っ暗なので、子どもたちから、やっぱり今まで通学路が暗くて怖かったけど、一緒に帰ってくれるので、良かったっていう声はいくつも届いております。

防災危機管理課長

ここで先ほどの質問に対するお答えをさせていただきます。先ほど言ったようにテントは2,900個でエアベッドの方は6,800個でございます。

羽田ゆきまさ報道局

喫煙所の支援について、民間の支援でランニングコストの5年間ということなんですけど、耐用年数的にはもっと長く使えるもので、民間としても補助があるから置こう

よと言った時に補助がなくなる5年目で辞めてしまうようなことが考えられるのかなと思ひまして、区で独自で設置するよりも設置してもらったものを廃止されない方がより税金の無駄にもならないのかなと思ひます。そういうことを考えると10年とかあるいは基本的に例えば耐用年数があまりにも長ければ最大15年までとか、そういったふうにして長期的に支援して廃止をさせないっていう方が重要な気もするんですが、この5年で区切っているのはどのような理由なのか教えてほしいです。

高際区長

それまでは民間の皆さまにぜひお作りくださいっていう呼びかけだけをしていました。それを令和4年度から設置費の助成を始めまして、今おっしゃった通り、設置するだけ費用をもらっても、維持管理がかかるんだよっていうことで翌年度から維持管理を含めまして、また今年度補助額を増やしたりしてやっております。基本的には民間の皆さまが例えば自分の建物の中に設けたりっていうものなので、ご自身でご協力をいただきながら、設置維持の維持管理してもらいたいものと思ひているんですが、そんなお声もあったので今5年までやっています。そこは設置された方についてはずっとやってもらう方がもちろん良いと思ひますが、公費を入れて民間の建物の中に設けるものについては、私は5年が区切り良いかなという考えで今はやっています。

今後、街の美化っていう観点でもっと増やしてかなきゃいけないっていう時には、人間ももしかすると考えなければいけないのかなというふうには思ひますが、現状はそんな考えでやっております。

羽田ゆきまさ報道局

あと子育てファミリー一世帯の家賃助成なんですけど、こちら家賃が高いから引っ越そうかなと考える人に利用をさせるっていうところが、そもそもそういったターゲットを絞って補助をとということが難しい。そうするとお金をもらわなくても引っ越すつもりはないよって人にもいってしまう形で、目的通り達成がされにくい政策かなというふうには思ひたんですが、これが例えば希望する全世界帯に配るっていうんだったら、そういった助成がないなら引っ越そうという人にも必ずいくだろうしというところもあるんですけど、多分20~30世帯程度の対象の予算案だと思うので、そういったところで本当に有効なのかっていうのをどう思ひられていますか。

高際区長

子育てファミリー世帯の家賃助成ってというのは、もともとあるところに行って子どもが大きくなって、狭くなってきて、その環境を良くするって意味で少し大きい部屋に引っ越す時に支援するよっていうところからスタートしたものであります。住宅については豊島区は家賃高いから引っ越すんだというのが大きな問題としてあって、そういう中でただいろんな条件がある人に対してすべからく家賃助成を公費でやるってわけにもいかないんで、1つはその子育て世帯をとどめるっていうんですかね、住み続けてもらう、子どもが大きくなって引っ越しなきゃいけないところで何とか支援ができないかということで始めているものであります。

住宅課長

来年度予算では一応上限は30件ということにさせていただいているんですが、今回新たにまた拡充した部分としては、30件を超えた場合は抽選になるんですが、抽選で外れた場合は、その翌年も申し込めるといようなところにしておりますので、そういったところで広げていければ良いかなと思っているところです。

広報課長

それでは、以上を持ちまして本区の区長記者会見を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

※テキスト版については読みやすさを考慮し、重複した言葉づかいや言い直しなどを整理しています。

※当日配付資料

- ・令和7年度豊島区当初予算案プレス発表
- ・主な事業一覧
- ・豊島区当初予算（案）の概要

(テキスト版文責 政策経営部広報課)